

私の本棚 / JGS ニュースレター 2017 年 15 号 (4 月 12 日発行)

「手のひらの太陽」 — 「時を知る、位置を知る、姿を残す」 道具

本体価格：1,500 円 (税抜き)

ISBN 978-4-86480-904-7

2014 年 4 月 26 日発行

発行：株式会社 LIXIL

編集・制作：坂井編集企画事務所

季節を問わず正午に必ず真南を通る太陽。その規則正しい動きから、古代の人たちは時間を測りました。日時計はエジプトで誕生し、ヨーロッパでは日常に欠かせぬ存在です。また、目印の無い海の上では、自らの船の位置を確かめる唯一の方法が、六分儀を使って太陽の高さを知りそこから割り出していくことでした。古代ギリシアでは太陽を観察するために、ピンホールからの投影現象で日食を観察する方法を生み出しました。やがて目の前の景色を手で描き写す道具として、カメラの原点となるカメラ・オブスキュラが誕生します。

本書は「人類最初の科学装置」の日時計を中心に、人類が太陽を身近なものとしてとらえ、利用しようと試みてきた歩みと、その知恵の結晶から生まれた 3 種類の道具を紹介していきます。コラムでは、世界および日本の人たちが太陽をどうとらえたかの考察や、国旗・国章に描かれた太陽など、身近な太陽を多角的に見ていく充実した一冊です。

